

ICTを活用している先生！

1つの質問に4人の先生が本音で答える

先生 TALK!!

vol. 7

毎回テーマに沿って4人の先生にご登場いただく本企画の7回目は「ICTを活用している先生」。授業でのICTの活用法やそのメリット、変わりつつある生徒などについて語っていただきました。

Q1 ≡ プロフィール

[FILE NO.1]



北海道寿都高校(北海道・道立)
2学年付・教務部長
英語担当
佐藤育子先生(教員歴20年)

[FILE NO.2]



岩倉高校(東京・私立)
1年担任・高大接続関連主任・進路指導部
英語担当
明石有美先生(教員歴11年)

[FILE NO.3]



土佐塾中学・高校(高知・私立)
専任講師・国際部長
英語担当
井田マックス先生(教員歴6年)

[FILE NO.4]



長崎南山学園(長崎・私立)
進路指導部
化学・中学理科担当
徳田憲一郎先生(教員歴9年)

Q2 ≡ 教員を志した理由

小 学2年のとき担任だった優しくてあたたかい女性の先生に憧れました。卒業するとき、先生のおうちでカーライスと一人ひとりに名前入りキーホルダーを頂いたのを覚えています。中学1年のときの、いろいろなボランティア経験をさせてくれた先生も印象に残っています。ずっと先生に恵まれ、自然と自分も教員を志すようになりました。

中 学生のころから、アメリカなど外国の文化に興味がありました。また人と関わることが好きでした。中学時代にはお手本にしたい先生との出会いもありました。高校時代にスピーチコンテストに出場したり、交換留学生としてオーストラリアに行くなどしているうちに、周囲から学校の先生に向いていると勧められるようになりました。

日 系アメリカ人としてカリフォルニアで生まれ、ハワイで育ちました。人と接することが好きな上に、母の故郷である日本に住んでみたかったので、夢を叶えるには英語教員になるのがベストだと思いました。ハワイの教会が縁で交換留学生として土佐塾高校を訪れ、今は教員として勤務。高知とハワイはアットホームな雰囲気がよく似ています。

大 学は水産学部で学び、研究者志望でした。しかしアルバイトで塾の講師をしたときに、2人の中学3年生と出会ったことが転機に。ウェディングプランナーになりたい、カメラマンになりたい、キラキラと夢を語る子たちに魅了され、こういう生徒に学びのアドバイスをし、夢を後押しする、教員という仕事に一生をかけたかったと思いました。

Q3 ≡ 授業で実践しているICT教育

小 さな漁師町にある小さな高校ですが、北海道教育委員会の遠隔授業の実践事業に参加。1学年4〜6人程度の希望する生徒に、札幌西高校のレベルの高い英語の授業を、双方向通信システムで受け取ってもらいます。教科書もカリキュラムも西高のもの。外部と接する機会が少ない生徒たちにとって、大きな励みと刺激になっています。

生 徒の実力アップに特に有効だと感じるのはスピーキングテストでのタブレットの活用。自分で録音した音声データを提出してもらいますが、締切はその日の23時59分。納得できるまで家で録音を繰り返すので、間違いなく上達します。また、最近は高大連携の一環として、動画を作成しカンボジアの高校生と交換するという取り組みを始めました。

ス ピーキングのテストでタブレットを活用。2人1組となり、教科書の内容について英語でプレゼンし、もう1人が録画。これを交互に行い、画像データで提出します。1人ずつテストするのと違い時間短縮になり、プレゼン力もつきます。また、僕は板書が苦手。現在は板書はやめ、事前に準備した教材をプロジェクトに投影して授業をしています。

授 業の始めに前回までの内容から問題を出し合い復習します。その後は毎回3〜4人のグループワーク。私は授業の目的だけを示し、あとはグループで教科書、タブレットなど好きなものを使い、重要だと思う内容をまとめます。スタディサブリの動画を見てもOK。生徒が学びをデザインします。最後に疑問点を出し合って、私が板書しながら整理して解決します。

Q4 ≡ ICT教育を 実践するうえで 大切にしていること

西 高の授業を受けている生徒をしっかりサポートすることです。私も授業に参加し、ノートを見て指摘したり、サポートしたり、質問を受けたり、補足したりといった具合。西高の先生と生徒情報を共有し、補習などの個別対応も行っています。昨年までは他教科教員が対応する授業でしたが、やはり連携は大切だと痛感しています。

興 味をもったときにすぐに調べられる環境を整えることが大切だと思います。新しいことを知る楽しさを知ってもらいたいからです。また、ICTのおかげで世界は近くなりました。スカイプではなく、あえて動画を作成して送り合う取り組みをしているのは、こんな時代だからこそ、形に残すことの大切さを伝えたいという思いがあるからです。

た だ何となくICTを使うということはありません。授業を見直し、何が不足しているか、どう改善できるか、ICTを使って何ができるかを考えてから計画的に実践します。実は本校では今年、タブレットを導入したばかり。他の先生の使い方を見て参考にしたり、互いに助け合ったりしながら、学校全体で活用できるようにしていきたいです。

一 つ目は「自由」。学び方を自由に選ぶということも、必要な情報を抜き取る力をつけるために重要だと考えています。もう一つは「自立」。自分が使いたいタイミングで使いたい教材を使うことで自立心を養います。自分で目標を立て、前回は振り返り、伸びたこと、できなかったことなどから自身の学びの質を高め、毎日成長することを実感してもらっています。

Q5 ≡ ICT教育を 実践するうえで 嬉しかった出来事

生 徒たちの学習に対するモチベーションが上がったことです。また、遠隔授業というのは、雰囲気や対面と違い、しっかり言葉を発さないと相手に伝わりません。そのため、おとなしかった生徒も積極的に発言することが増えました。西高の先生も親身になって受験に関する情報まで教えてくれるので、生徒たちもとても嬉しかったようです。

一 方的に伝える、教えるという形式ではない授業ができることです。生徒のイキイキとした表情から、学びを楽しんでいる様子が見て取れます。ICTの活用に関して、「書く力が育たないのでは?」「学力はきちんとつくのか?」といった声も聞きますが、英語に関しては、生徒の「話したい」「伝えたい」という意欲が増し、力が付いていると思います。

時 間を有効に使えるようになったこと。板書をしなくなったことで、授業の進度を調整したり、ヒアリングの時間を増やしたりといった融通が効きやすくなりました。ワイヤレスでプロジェクトに教材を投影しながら、教壇を降りて生徒たちの間をうろつろ。生徒との距離が縮まり、生徒の理解度も以前より細やかにわかるようになりました。

ふ と気付くと、放課後ディスカッションをするなど、生徒たちが自主的に学び始めていました。タブレットなど気軽に使えるICT環境がないと、これは難しいと思います。ニュースに興味をもったり、これって英語でなんというのだろうと考えたりしたときも、すぐに情報にアクセスできるので、生徒たちは自分から知識を求めにいくようになりました。

Q6 ≡ ICT教育を実践し 生徒にどのような 変化があったか

授 業に対する集中力が身に付き、家庭学習の時間も増えました。外部の先生と接したことを機に、自分の現状や課題を客観的に認識し、考えて学ぼうとしています。また、本校の生徒は幼いときからの顔なじみが多く、どうしても甘えが出てしまいます。そんななか、いい意味で緊張感をもって授業を受けるという経験ができていると思います。

連 絡事項のやりとりなどHRでもタブレットを活用していますが、生徒のほうが詳しくなってきました。学園祭の話し合いでも、クラスボックスというクラウドのようなものを使っていました。クラスの出し物では、ミステリー風の動画を作成し教室の電子黒板をモニターにして来場者を楽しませるなど、教員のほうが参考にしたい活用をしています。

講 義型の授業から、タブレットを使ったディスカッション型の授業へ。この転換により、頭を使って考えたり話したりする力が育ってきたと思います。講義型は日本の教育の特徴ですが、どうしても教員が話す時間が長くなってしまいがデメリット。生徒が自分の言葉で自分の意見が言えることが、これからの日本の教育に必要なと考えています。

自 分たちで課題を求めたり、興味のあることを調べたりするクセがついてきたため、学部や大学について考える際も選択の幅が広がっているようです。せっかく学校にいるのだから、「テレビ見た?」など、その場でない情報について話したり、その場で情報にアクセスして、意見を交わせるほうがいい。そこから、将来の進路も見つかるかもしれません。

Q7 ≡ ICT教育において 今後挑戦したいこと

こ の遠隔授業の取り組みは、最初はモニターで行っていましたが、今年7月からタブレットが導入されました。生徒はタブレットを通して授業を受け、英作文などをタブレットで書き、全員で共有し、先生に見てもらおうなど、臨場感が増しました。西高の先生方と連携し、遠隔授業をより効果的に行うタブレットの活用方法を研究していきたいです。

グ ローバルな視点をもたせるためにICTを活用したいです。例えば、本校には運輸科がありますが、ICTを使って海外の鉄道会社と連携するようなキャリア教育をやりたいです。また、大学の遠隔授業に参加するなど高大連携の中での活用にも期待ができます。来年度からタブレット導入が全クラスとなるので、活用の幅を広げられるのが楽しみです。

本 校ではまず高校1年生でタブレットを導入しましたが、4月、5月は慣れるだけで精一杯でした。本校は中高一貫校なので、できれば中学生から持たせ、使い方に慣れたうえで、高校では最初からしっかり有効に活用していくのが理想だと思います。また、プロジェクトに投影する教材に関して、長く使えるいいものを全学年分作っていききたいです。

生 徒のプレゼンやパフォーマンスを動画サイトに投稿すること。伝えたいことを伝え、第三者の評価を受けるプロセスを生徒に味わってほしいです。また、個人的にはプログラミングに興味があるので、ロボット製作にも挑戦させたいです。簡単なものでは、オープンキャンパスで小学生向けにミニ四駆大会などを開催するのも楽しそうです。